

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月19日 更新

事務事業名		ハンセン病啓発事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	大高和弘
	施策	23	人権が尊重される社会づくり			所属課	人権啓発教育課	担当者名	曾我陽子
	基本事業	74	人権尊重についての理解の促進			所属班	啓発教育班	(内線)	2513
予算科目		会計一般	款3	項1	目8	事業連番10860	法令根拠	ハンセン病問題の解決の促進に関する法律	
								成果優先度評価結果	①
								コスト削減優先度評価結果	⑫
終了、開始年度		☐ 26年度で終了 ☐ 26年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 9 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	ハンセン病問題を正しく理解するための人権啓発事業である。ハンセン病を正しく理解する週間に合わせて、講演会等の催しを実施する。具体的には、講演、菊池恵楓園から借用したパネル展示などを実施している。平成8年の「らい予防法」の廃止を受け、平成9年、町民のハンセン病問題に対する正しい知識の普及・啓発と、また、療養所入所者と町民との相互交流をより進めていくために開始した。取り組みを始めた頃に比べると、市民のハンセン病問題に対する理解は深まってはいるが、参加者のアンケート調査等で菊池恵楓園を知らない人もまだまだ多いことから、市民に対する理解と啓発を進めていく必要がある。
【業務の流れ】	①事業内容、日時、場所等の検討と決定。 ②講師依頼と展示物等の手配。 ③広報、ホームページで講演会開催の周知を図る。(各団体等へ開催案内送付) ④講演会等の実施 ⑤アンケート等の実施 ⑥アンケート結果の解析。
【主な予算費目】	報償費、需用費、役務費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	議会からは、「市民への周知に工夫をするように」との意見がある。 菊池恵楓園入所者自治会からは、本事業を開催していくことを要望されている。 アンケートでは、「このような講演会があれば、また参加したい」との声がたくさんある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO) ハンセン病問題啓発事業として、平成26年6月28日(土)に、ヴィーブル文化会館で講演会を行った。 啓発パネル展を、6/10～7/6の期間実施した。 講師：遠藤隆久さん(えんどうたかひさ) 演題：「ハンセン病問題の今日の課題～差別を受けた被害者の問題から私たちの問題へ～」 参加者 約600名		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 平成27年6月20日(土)に講演会を開催予定。 会場：ヴィーブル文化会館
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:講演会等の開催回数	回	
→イ:参加者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民	人	→ア:人口
市内事業所社員等	人	→イ:市内従業者数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
ハンセン病問題を正しく理解してもらう。	%	→ア:正しく理解した参加者の割合
		→イ:
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
参加者にハンセン病問題を正しく理解してもらうことが意図のため。		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標	回	人	1	1	1	1	1	1	1	1	
	人		330	624	400	580	400	400	400	400	
② 対象指標	人		57,367	58,237	58,785	59,067	59,200	60,100	60,900	61,500	
	人		17,521	17,521	18,000	17,521	18,000	18,000	18,000	18,000	
③ 成果指標	%		100	100	100	100	100	100	100	100	
	人										
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	96	251	352	181	353	352	352	
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	96	251	352	181	353	352	352	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
人件 費	正規職員従事人数	人	6	5	6	5	6	6	6	0	
	延べ業務時間	時間	310	340	300	295	300	300	300	0	
	(B) 人件費計	千円	1,262	1,354	1,195	1,175	1,195	1,195	1,195	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,358	1,605	1,547	1,356	1,548	1,547	1,547	0	

事務事業名	ハンセン病啓発事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	人権啓発教育課
-------	-----------	-----	-------------	-----	---------

2 評価の部（SEE）

*原則は26年度事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 参加者のアンケートからも理解の促進が図られていることがうかがえる。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 次年度も各団体に対し、参加依頼を行う。また、広報紙等により市民に参加を呼びかけていく。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 参加者の理解促進は図れているので講演会における成果は満たされているが、開催内容を検討し、さらなる参加者数の向上を目指す。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業はない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 啓発事業を推進するうえでは、最小限の事業費であり、これ以上の削減はできない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 本事業にも、職員は、少人数で対応しており、内容、講師の設定、他のイベントとの日程の調整に時間を要している。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 市民全般に事業への参加を呼びかけており、また、すべての市民がハンセン病問題を正しく理解することが必要であるため、本事業を開催することは、公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 人権問題の啓発は行政の責務であり、役割分担は適正である。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

高齢者教養講座に組み込んだ事と、周知を重ねたことでその他の参加者も増加して席が足りない状況であった。内容についても多くの参加者から「良かった」との声があった。今後も内容と周知方法に工夫をして、より多くの市民にハンセン病問題を正しく理解できる機会の提供に努める。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 今後も内容と周知方法に工夫をして、より多くの市民にハンセン病問題を正しく理解できる機会の提供に努める。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"> </td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								